

2022. 6. 6

松江市小中一貫教育だより NO.9

小中一貫教育推進係 文責：安部

演劇専用の劇場で、本物にふれる

11月5日(土)～11月14日(月)に、八雲町にある「しいの実シアター」で「松江・森の演劇祭」が開催されます。この演劇祭は3年に一度開催され、世界各国から一流の劇団員が参加して演劇祭を盛り上げます。

今回、この演劇を多くの子どもたちに観てもらい、演劇の楽しさや表現の深さ、感動を味わってもらいたい、諸外国の文化に触れる中で多くのことを感じ取って欲しいと考え、11月8日(火)～11月10日(木)を「学校の団体観劇日」と位置づけ、観劇のバス、入場料を市教委で負担することとしました(引率の先生方分のバス代も負担し、入場料につきましても無料です)。学校行事で忙しく、新型コロナウイルス感染拡大が予測できない時期ではありますが、こぞって申し込んでいただけたらと思います。(※申し込みの仕方等詳細に関することは、先日各校に送付いたしました「実施要項」「募集について」をご覧ください。)

今回上演するのは世界的に有名な「アンデルセン童話」(「父さんのすることは、いつもよし」)で、右の写真のお二人がその役者さんです。ブルガリアから来日され、「自分の味方になってくれる人がいるということ、そして、絶対にどんなことがあっても信用できる人、そしてありのままの自分を見ていつも喜んでくれる人が、人には必要」というメッセージを観る人に伝えます。劇中のセリフは全て日本語でされるということで、観ている子どもたちもメッセージをしっかりと感じ取ってくれるのではないのでしょうか。

木の香りに包まれ、温もりのある居心地の良いしいの実シアターで、プロの役者さんの豊かな表情、動き、声、目線…そして、こだわりの衣装や小道具などを間近で感じながら、「アンデルセン童話」の世界にどっぷりと浸っていただけたらと思います。

なお、観劇の後は役者さんに質問をする時間も設けようと考えておりますので、ブルガリアの文化を知るまたとないチャンスになると思います。



しいの実シアター(ステージから客席を望む)

「しずかな森の中に佇む小さな木づくりの劇場は、訪れた人が“こころの食べもの”に出会える空間です。」
(しいの実シアターHP より)

クレドシアター(ブルガリア)について ※役者の紹介文より

クレドシアターは国立映画演劇学院(通称 NATFIZ)を卒業した、指導者で女優のニーナ・デミトローヴァ(Nina Dimitrova)によって1992年に、首都ソフィアで設立された演劇専門劇団です。

クレドシアターは、より演劇を楽しんでもらうために、ドラマ、クラウン、コメディ、人形劇、パントマイムを組み合わせて、思いがけない表現豊かな演劇表現を目指しており、上演する国の言語で演じることに意識と時間を費やしています。舞台にある小道具は、役者たちによって次々と他の道具に変わるなど、クレドシアターの舞台は、世界の演劇の中でも独特なものです。

アンデルセンの「父さんのことはいつもよし」"Daddy's always right"は、ハンス＝クリスチャン＝アンデルセンファンデーションからの招待を受け、2005年にデンマークで開催されたアンデルセンの誕生200周年記念の国際プログラムの一環で演じられました。その後、50以上の国際フェスティバルで200回以上公演し8つの国際的な賞を受賞しました。